

4 調査研究業務の概要

平成20年度実施課題一覧

①保健関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
感染症の発及び食品の安全性確保に関する研究	腸管病原性大腸菌の検出方法に関する研究	既知の病原因子を持たない大腸菌について、その病原性の確認と病原因子の解析を行う。	17-20年度	P16
	鶏肉のサルモネラ汚染状況を改善するための基礎的研究	鶏肉のサルモネラ汚染率を減少させるため、サルモネラ汚染とブロイラーとの関係を明らかにする。	17-20年度	P16
	これまで原因不明となっていた食中毒細菌の検査方法の開発	①カンピロバクターのPCR検査におけるプライマーを検討②ペロ毒素Stx2fの検査法を検討③従来報告されていないウエルシュ菌毒素検査法を検討	20-21年度	P16
	福岡県における腸管出血性大腸菌食中毒・感染症を防止するための研究	腸管出血性大腸菌感染症について、早期発見・原因究明を行うために必要な高感度検出法、迅速解析法を確立する。感染予防対策の遂行を可能とする情報伝達システムを構築する。	19-21年度	P16
	県内に生息するダニ類の病原体保有状況に関する研究	ツツガムシ病、日本紅斑熱の病原体リケッチアの侵淫状況を把握するために、県内に生息する病原体媒介ダニを捕獲しPCR法により病原体の有無を確認した。	20年度	P18
健康危機発生時の機能強化に関する研究	福岡県における健康危機に対応するための試験検査機能強化に関する研究	健康危機管理のために当研究所が準備すべき、細菌、ウイルス、化学の各分野における、網羅的かつ迅速な検査法を選定し、その有効性について疫学的手法を用いて評価することと、疫学機能の強化を図ることを目的とする。	20-21年度	P18
ダイオキシン類、有害化学物質による環境汚染の防止とその対策に関する研究	臭素系ダイオキシン類等新たな有機ハロゲン化合物による食品汚染調査	臭素系ダイオキシン類を中心とする有害化学物質を対象に個別食品試料及びトータルダイエツト試料の分析を行い、食品からの摂取量及び汚染実態を明らかにする。	20-22年度	P21
	ダイオキシン類による油症等のヒト健康への影響解明及び症状の軽減化に関する研究	ダイオキシン類のヒト健康影響及び次世代影響を究明するとともに、油症患者の治療効果（症状の低減化）について科学的知見を集積する。	19-21年度	P21

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
地域保健情報の解析、評価及び活用に関する研究	福岡県における健康情報システムの確立とその応用に関する研究	介護予防施策に有用な指標の作成も含めて、これまでの指標に留まらない健康指標を提示するとともに、新たな健康情報システムを構築する。	17-20年度	P11
	油症の健康影響に関する疫学的研究	油症患者の中で出現する様々な臨床所見、生化学検査、PCB、PCQ、ダイオキシン類等のデータを経年的に保存管理し、様々な要因の頻度と分布及び患者の生死を明らかにする。また、油症のリスク評価を行い、油症患者に対する有効な治療、健康管理、その他健康関連対策に必要な情報を提供する。	19-21年度	P12

②環境関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
ダイオキシン類、有害化学物質による環境汚染の防止とその対策に関する研究	化学物質分析法開発調査	近年の化学物質の種類と量の増加に対して環境リスクを適切に評価し、環境リスクの削減を推進するため、LC/MSを用いた新たな化学物質分析法を開発する。	18-21年度	P14
	汚染土壌中ダイオキシン類の簡易測定法の研究開発	汚染範囲の確定や汚染土壌除去・修復効果の確認等を行う場合に適用することができる迅速かつ低コストな土壌中ダイオキシン類簡易測定法を開発する。	19-20年度	P14
大気環境の保全に関する研究	福岡県における広域汚染に関する研究－煙霧及びオキシダントを中心として－	福岡県において、大陸からの移流によって広域的にオキシダントやSPM濃度の上昇が見られる。このような広域大気汚染について、状況把握と原因解明のための調査を実施する。	20-21年度	P23
	大気有害物質削減技術に関する実証研究 －高活性炭素繊維を用いた大気浄化技術の実用化、応用研究－	平成15－19年度に実施した「高活性炭素繊維を用いた大気浄化の実用化、応用実証化研究」の成果を基に、自然通風型の大気浄化システムに対して、一酸化窒素(NO)浄化能力の向上とACFユニットの最終設計、施工を行う。	20-22年度	P23
水環境の保全に関する研究	水生生物保全指標物質（全亜鉛）の流出特性の解明に関する研究	県内発生源からの全亜鉛の排出状況を明らかにするとともに、河川水質に与える影響評価手法を確立する。当該評価手法は河川水質改善等の行政施策を推進する際に有力なツールとなり得る。	19-21年度	P25

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
水環境の保全に関する研究	陸域からの溶存態ケイ酸の流出機構と海域生態系に与える影響の解明	有明海のノリの不作・赤潮発生の原因を解明するため、珪藻の必須栄養塩である溶存態ケイ素の時空間的変動を把握する。そして、対象流域からの溶存態ケイ酸の流出機構及び海域での溶存態ケイ酸濃度の変動要因を解明し、これらの海域生態系への影響を把握する。	19-21年度	P25
廃棄物の適正処理と有効利用に関する研究	循環資源有効利用技術の開発及びリサイクル資源の環境安全性に関する研究 —焼却灰からの塩素除去技術及び使用済み紙おむつの再資源化に関する研究—	有機性コンポストの混合による焼却灰からの塩素除去技術について、その塩素除去機構について検討する。また、使用済み紙おむつの再資源化技術を評価するため、再資源化工程におけるパルプ及び高吸水性ポリマーの定量方法について検討する。	20-21年度	P27
	最終処分場における汚染物質の動態と適正処分に関する研究	最終処分場におけるガス発生や浸出水の高汚濁負荷の実態を調査し、その原因となる有機物の特定と動態を明らかにするとともに、硫化水素発生との関連性を解明することにより、汚濁物質の発生抑制対策や最終処分場の適正管理に資する。	19-21年度	P27
自然環境と生物多様性の保全に関する研究	福岡県における希少植物・群落の分布特性とその保全に関する研究	福岡県における希少植物・群落の分布・生育特性を把握、整理するとともに、分布状況に基づく地域評価を全県的に行い、生物多様性保全を効果的に推進するための基礎情報を得る。	18-21年度	P29
	福岡県における外来水生植物の生育状況と管理対策に関する研究	特定外来生物指定種等になっている外来水生植物を対象に、県内の分布実態を把握するとともに、在来種への影響等を把握することを目的とする。併せて、当該外来種の管理対策についても検討する。	18-20年度	P29
	生物多様性保全に向けた遺伝学的研究	旧来の希少生物種の生態学的な保全活動に遺伝学的な視点を導入することにより、生物種同士の遺伝的な差異を明らかとし、地理的由来や遺伝的多様性を評価・検討することを目的とする。	18-20年度	P29
計		21 課題		